

荒瀬ダム本体等撤去工事に伴う工事説明会議事録

平成27年7月30日(木)

19:00~20:00

八代市坂本町 坂本公民館1階ホール

1 開 会

【進行】

それでは時間になりましたので、ただ今から荒瀬ダム本体等撤去の「平成27年度工事説明会」を開催させていただきます。

本日はお忙しい中、また夜間にもかかわらず、多数の皆様にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。本日の進行を務めさせていただきます、熊本県企業局 荒瀬ダム撤去室の田中でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、まず始めに、企業局次長の福島よりご挨拶申し上げます。

2 挨 拶

【福島次長】

皆様こんばんは、企業局次長の福島でございます。説明に先立ちましてご挨拶を申し上げます。本日は、荒瀬ダムの平成27年度工事説明会を開催しましたところ、お忙しいところご出席をいただきまして、心から御礼申し上げます。

荒瀬ダムにつきましては、本年3月にダム右岸側みお筋部の撤去が完了し、ダムの上下流において、球磨川の自然な流れが復活するなど工事の大きな節目を無事迎えることができました。本年度は、残る管理橋と門柱を全て撤去する予定でありまして、工事もいよいよ折り返し点を迎えることとなります。これも、地元をはじめ関係の皆様方のご理解・ご協力のおかげと感謝しております。引き続き、工事の安全や河川環境に十分配慮しながら、ダム撤去を進めていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、平成26年度の撤去工事の結果や平成27年度の工事内容などについて、説明する予定です。地元皆様の心配な点やご意見などをお伺いし、今後の工事施工を円滑に進めていきたいと考えております。

最後に、地域の皆様におかれましては、工事期間中は何かとご迷惑をおかけいたしますが、何分ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

3 工事説明

【進行】

ここで、本日の出席者をご紹介します。まず、先ほど挨拶しました企業局次長の福島です。同じく企業局工務課長の武田です。同じく企業局荒瀬ダム撤去室長の吉ヶ嶋です。また、本日は施工業者も同席しております。フジタ・中山建設工事共同企業体の宮地作業所長です。同じく、生嶋主任技術者です。その他の出席者については、お手元の配席表で紹介に代えさせていただきます。

それでは、本日の進行についてご説明いたします。説明会次第に従いまして、先に「荒瀬ダム本体撤去工事」及び「モニタリング調査」についてご説明し、説明が終わりました後に、ご意見、ご質問を受けたいと思います。終了時刻は、おおよそ 8 時 30 分頃を予定しております。ご協力をよろしく申し上げます。なお、説明は前方のスクリーンに映しました資料に沿って進めていきます。配布資料にも同じ内容のものをお配りしております。適宜、ご参照ください。予部もありますので、必要な方はお帰りの際に申し出て下さい。また本日の資料につきましては、近日中に県企業局のホームページに掲載する予定です。また議事録についても、作成次第、掲載する予定ですのでよろしくお願いいたします。

【説明】

それでは、「荒瀬ダム本体撤去工事」及び「モニタリング調査」について、説明させていただきます。

スライド 1

それでは荒瀬ダム本体等撤去工事の説明をさせていただきます。私は企業局荒瀬ダム撤去室の村上と申します。よろしく申し上げます。

スライド 2

本日の工事説明会では、荒瀬ダム本体撤去工事の全体計画、平成 26 年度工事の結果、平成 27 年度工事の概要、それから平成 28 年度 5 月までの工事の概要、荒瀬ダム本体撤去の関連工事について、最後にモニタリング調査について、説明させていただきます。

スライド 3

最初に全体計画を説明します。

スライド 4

画面は、河川の下流から上流側をみた図になっております。向かって左側が右岸で県道中津道八代線側、右側が左岸で国道 219 号となっています。全体工程については、昨年度の説明から変更はございません。今年度は緑で示した部分を撤去する予定で、来年度が青で示した部分で、最終の平成 29 年度に水色で示した部分を撤去しまして、工事完了となる予定としております。

スライド5

平成26年度工事の結果を説明します。

スライド6

昨年度の工事は4月から5月に3基の洪水吐ゲート、8月から9月に門柱上部を2基、11月から3月にかけて本体みお筋部の撤去工事を行いました。それぞれの工事の状況を紹介したいと思います。

スライド7

写真は最後の洪水吐ゲートの現場搬出状況です。5月で全ての洪水吐ゲートの撤去が完了しました。

スライド8

これが、門柱上部の撤去状況です。門柱をブロックに切断し、クレーンで管理橋上に吊り出し、中間処理場へ搬出しています。

スライド9

続いてみお筋部の撤去になりますが、赤で示す部分について火薬を用いた発破で撤去を行いました。発破時には県道側の通行規制を行い実施しております。

スライド10

こちらはダム本体の断面図になります。左が上流で右が下流になります。下流端には安全と施工性を考えて締切り擁壁を新たに設置しました。発破は図の1番から順番に行いました。

スライド11

工事内容を詳しく説明します。まず、仮設の状況です。仮橋を2橋仮設し、右岸側ダム上流に作業ヤードを確保しました。みお筋部のコンクリート撤去の締切りとして下流に擁壁を施工し、作業の安全を確保しております。取り壊したコンクリート殻は二次破砕ヤードで20cm程度に小割りした後、一般交通の影響を極力減らすために可能な限り取水口から投入しております。また、濁水の対策としまして、濁水処理施設及び汚濁防止膜を設置し工事を行いました。

スライド12

発破の状況をいくつかご紹介します。堤体上流上部の左岸側です。動画をご覧ください。
<動画>

スライド13

続きまして水叩きみお筋部です。発破状況をご覧ください。

<動画>

スライド14

こちらの写真はダム上流に残存していた矢板や牛枠、締切りコンクリートの撤去状況です。締切りコンクリートの撤去につきましては、文献等の調査でかなり大きなものと予想しておりまして、完全に撤去ができるのか非常に心配しておりましたが、想定していたより浅く3m程度であったことから完全に取り除くことができました。

スライド15

導水トンネルの埋戻しについて説明します。発破したコンクリートは破砕機で20cm程度に小割りした後、導水トンネルに埋戻しております。藤本発電所側から順に埋め戻しております。昨年度の工事で導水管路部約70mと導水トンネル約600mのうち4分の1の約150mまで埋戻しが終わっている状況でございます。

スライド16

トンネル内部の埋戻しの状況です。導水トンネルと導水管路の境に制水ゲートがあったため、最初に切断し撤去を行いました。その後、運搬車でコンクリートを運搬し、奥から随時埋戻しを行いました。

スライド17

コンクリート殻は小割りしていたため、粒度が整っており、トンネル内での施工性も良く、左の写真にあるように赤の破線で示すトンネルの上部まできれいに埋め戻すことができました。鉄道の下約20mの区間につきましてはJRと協議の結果、トンネルの空洞処理等に用いられる発砲ウレタンによる充填を行っております。

スライド18

続いて、環境対策です。土工事に伴う河川への濁り防止のため、濁水処理施設や汚濁防止膜を設置し工事を行いました。また騒音対策としましては、写真のように国道219号の路肩に防音壁を設置し工事を行っております。

スライド19

次に平成27年度工事の概要をご説明します。

スライド20

今年度の工事は、図で赤く示した部分、②の管理橋5径間、③の門柱5基の撤去を計画しています。なお、緑で示した①の水位低下ゲートの撤去は4月に完了しているところでございます。それぞれの工事を説明したいと思います。

スライド 2 1

まず、水位低下ゲートの撤去ですが、3月にみお筋部が開放されたことにより、水位低下装置の役目が終わりましたので、4月に水位低下ゲートの撤去を行っています。切断分割して撤去しました。

スライド 2 2

次に管理橋の撤去について説明します。平成 27 年度出水期、概ね 8 月～10 月、お盆過ぎから管理橋 5 径間を撤去します。

スライド 2 3

こちらの写真は、前回平成 25 年度に行いました管理橋の撤去状況です。コンクリートカッター等で上部のコンクリート床板を撤去した後、橋桁をクレーンで釣り上げ撤去しております。今回も同様の工事を行う予定です。

スライド 2 4

続いて、門柱の撤去について説明します。門柱の撤去は、平成 25 年度に行ったように倒壊させて撤去してまいります。仮設等の準備は、10 月から始めたいと考えています。倒壊の手順を説明します。施工ヤードの整備が終わりましたら、11 月から倒壊発破を行います。まず、赤く示した P5 の門柱を倒したいと思っております。

スライド 2 5

その後順に P4 を倒していきます。

スライド 2 6

次に P6 を倒します。

スライド 2 7

P3 を倒します。

スライド 2 8

最後に P2 の撤去を行います。

スライド 2 9

平成 27 年度末はクレスト上部の門柱が全て撤去され、このような形になる予定でございます。

スライド 3 0

倒壊発破ですが、平成 25 年度に実施しておりますので、ここでその状況をお見せしたいと思っております。

<動画>

スライド31

繰り返しになりますがイメージです。P5を倒した後、順番倒壊発破で撤去してまいります。

スライド32

次に作業時間について説明します。作業時間につきましては、基本的に仮設や本体撤去などの現場内作業を片づけや翌日の準備等を含めて8時から19時、土砂やコンクリート殻の搬入・搬出作業等の現場外作業として8時から17時を予定しています。土曜日及び祝祭日については、作業を行います。日曜日は休みの予定にしておりますが、現場の状況次第では作業を行う場合もあります。また、大型の重機や資材については、交通事情の理由から、時間外で作業する場合もあります。ご理解いただければと思います。

スライド33

交通安全対策について説明します。今年度工事のコンクリート殻の運搬は、図の緑の点線で示しておりますが、昨年度と同様、佐瀬野第1踏切の下流側の斜路を利用して運搬したいと考えております。主な交通誘導員の配置場所を図にピンクの丸で示しております。代表的なところを示しておりますが、作業の内容に応じて配置箇所や配置人数が異なります。工程に応じて必要な交通誘導員を要所に配置し、安全確保に努めてまいります。それから葉木橋下流のコンクリート舗装をしている工事用道路につきましては、今回梅雨時期の出水によって被災している状況でございます。これにつきましては、工事用道路として使用するかどうかは未定ですが、水位が下がる冬場に暫定的な工事を行う予定としております。

スライド34

続いて発破の実施について少し詳しく説明させていただきます。発破は11月以降に行います。基本的に日曜祭日を除きます。発破時間はJRや車両通行の影響を考慮し、14時30分から14時40分の間、国道219号及び県道中津道八代線を同時に通行止めしまして、準備が整い次第発破を行います。通行止めの回数、発破の回数でございますが20回程度を予定しています。昨年度までは右岸側の発破であったことから県道だけの通行止めでしたが、今年度は中央部分の発破となりまして、国道県道の両方に影響が及ぶことから、同時に通行止めが必要となります。具体的な実施につきましては、事前に案内看板等でお知らせします。このような看板を予定しておりまして、主要となる交差点等に予告看板を設置する予定にしております。その他、電光掲示板や道路情報センターの案内、紙面での配布ビラ等の周知を考えているところでございます。ご不便をかけ申し訳ありませんがご理解とご協力を頂ければと思います。よろしく申し上げます。

スライド35

交通止めについてももう少し詳しく説明します。まず国道側ですが、下流側は①道の駅さかもと付近で、上流側は②葉木橋下流で通行止めを行いたいと思います。県道側は、昨年と変わらず、下流側が③元ジェイビーフのところで、上流側はダムから300m上流の

道路が広い箇所では通行止めを行います。その他予告看板を設置するとともに、誘導員を①から④の通行止めの箇所、坂本駅前と葉木橋に配置します。ご不便をかけ誠に申し訳ありませんが、火薬を使う場合には法律で100m範囲内の立ち入りを規制しなくてはなりません。車両については安全を考慮し、見通しの良い直線区間で通行規制を行いたいと思いますので、ダムの上流約600m区間の立ち入りを規制したいと考えています。ご理解とご協力よろしく申し上げます。

スライド36

続いて、平成28年度の出水期までの工事についてご説明いたします。

スライド37

平成28年度の工事は、図の赤で示している部分を撤去することになります。下流側には濃い赤で示しています門柱下部が残ることとなります。少し立体イメージ図で説明します。

スライド38

これはH27年度の上部の門柱が撤去された状態のイメージ図です。赤で示しているのは撤去のための仮設土砂を表しています。平成28年度の工事では、青で示す門柱下部を撤去する必要があります。この部分を撤去するためには、この高さまで仮設土砂の盛土が必要となります。そこで平成27年度の仮設土砂を引き続き利用することで、平成28年度の出水期に再度盛土をすることなく、効率よくこの青の部分を撤去することができます。このように仮設土砂の撤去と共に門柱下部を4月に撤去していきたいと考えています。出水期の6月までに門柱下部と仮設土砂の撤去を終わらせ、濁水の発生を極力減らすよう努めてまいります。

スライド39

次に荒瀬ダム本体撤去関連工事について説明します。

スライド40

昨年度の関連工事の実施箇所です。企業局発注の関連工事について、番号を付けています。詳細を次にご説明します。

スライド41

まず、佐瀬野地区で実施した荒瀬ダム堆砂除去工事です。昨年度は泥土約8,500m³、砂礫約25,000m³の土砂を撤去しました。砂礫については、一部ダム本体撤去工事の作業ヤードの仮設材に使用しています。

スライド42

今回の工事ではただ除去するだけでなく、ダム建設前の川の流れをイメージして、瀬の復活を促進させる流路掘削を行いました。上の昔の佐瀬野の航空写真にある一の瀬、

二の瀬、三の瀬の部分です。現在は出水により少し形が変わっていますが、昔の流れに近づけたかなと思っています。

スライド43

掘削直後の状況です。みお筋部撤去完了までに砂礫 10 万 m³ を除去する工事が完了したため、堆砂除去工事としては昨年度で完了となります。ダム本体撤去で発生したコンクリート殻については、昨年度と同様に仮橋と工事用道路を設置し、河川を横断して導水トンネル入り口まで運搬することとしております。本体工事の施工に必要な土砂については、佐瀬野及びダム下流に堆積した土砂を利用し進めてまいります。

スライド44

続いて、県道中津道八代線の道路嵩上工事です。三坂地区の道路について延長 420m の嵩上げ工事を行いました。本年度も引き続き工事を行う予定です。

スライド45

モニタリング調査についてです。

スライド46

こちらが、平成 26 年度に行った項目となります。例年通りの調査を行っています。それぞれの調査結果については、荒瀬ダム撤去のホームページにも掲載してあります。

スライド47

こちらが、最新の航空写真を拡大したものです。ダム地点のみお筋の様子や 佐瀬野地区の瀬の状況が確認できます。

スライド48

出水後水位が下がった後のみお筋部の状況です。ダムの下流に一部堆積していることが確認できました。

<動画>

これが4月の中旬に撮影したダムの上下流で自然に川の流れが繋がった状況です。

スライド49

これはダム上流からみた今年度の3月のイメージです。工事が予定どおり完成すれば、このような形になると予想しています。以上で説明を終わります。

4 質疑応答

【進行】

以上で、荒瀬ダム本体撤去工事についての説明が終わりました。それでは、ただ今から、皆様方からの質問やご意見をお受けしたいと思います。ご質問、ご意見がございましたら、係りの者がマイクをお持ちいたしますので、挙手をお願いします。また、ご発言の前には、お名前をおっしゃっていただきますよう、併せてお願いいたします。

（住民A）

中流に住んで漁師をしております。この会に何回も出席させてもらっておりますが、本当に涙が出るように嬉しゅうございます。発破の時にも何回も立ち会いまして、もう本当に足が震えるといいますか、14年の12月の時の足の震えと同じでございます。その時は、荒瀬ダムを撤去、これはすごいエネルギーを使ってやったのですね。その後7年後には撤去というお話で非常に期待しておりました。その時に、その運動に参加した人たちが今ここにいてくれればという思いがします。ずいぶん経ってしまして、結局この場に集まったのは、残ったまあこれくらいというような感じでしょうか。いろんなことがありましたけれども、次長さんの感想として撤去にかかわってどのような考えをお持ちなのか、ひと言お願いできればと思います。

（事務局）

発言の機会をいただきまして、ありがとうございます。実は私の小さい頃は人吉の方に住んでおりまして、特に家が川からすぐに上がったところにあって、よく小さい頃に遊んだことを思い出します。大人になり荒瀬ダムがあることが当たり前とっていましたが、今年次長になり戻って来て、ダム撤去があってみお筋ができて私が小さい頃に川と親しんだ、川と遊んだそのような状況が今この荒瀬に復活しつつあることに対して、個人的には嬉しく思っています。いろいろ工事関係で皆様にご迷惑をおかけしてもうしわけなく思いますけど、先ほど言いましたように清流球磨川が復活するのは個人的にも業務的にも嬉しく思っております。個人的な感想で申し訳ないです。

（住民A）

ありがとうございます。建設に1年10か月でしたかね、撤去に10何年もかかったというのは解せないのですが、そこら付近を説明していただけるとありがたいです。

（事務局）

今お話がありましたとおり、平成14年に一旦撤去の方針が出されまして、そしてご承知かと思いますが7年間ということで、その間にいろんな学識者の皆様方で委員会を立ち上げまして、撤去に関する工法の検討なりの準備を進めておりました。それが一旦社会情勢の変化等で存続というような場面もありましたけど、平成22年に撤去という事で再び動き出しまして、ただし、2年間の準備が必要ということで平成24年度からの撤去となっているところでございます。今申し上げたとおり、本格的なコンクリートダ

ム撤去という事で非常に慎重にかつ経験のある学識の皆様方から長年にわたりご意見をいただき、撤去に関する工法等の検討がなされてきたところでございます。そして、いよいよ24年度から着手となりましたが、建設の1年10ヶ月と比べると6年かかますが、環境に配慮し、なおかつ安全に撤去していくという事で6か年の工期で撤去していく、結果的には長くかかることとなったという事でございます。まとめとなりますが、やはり慎重に安全に環境に十分配慮しながら進めていきたいと思っております。皆様には長らくご迷惑をおかけしますが、ご理解をお願いいたします。

(住民B)

下流に住んでいます。工事の計画の段階で多少の基礎部分を全部取るのではなく、ある程度残すというようなことで始めたのですね。今年まだ梅雨が終わったばかりという事でまだ調査をしておられないと思いますが、今年は6月7月に増水が頻繁にありまして、河床が昔の流れに変わったという説明がありましたけれども、そういったことでダムの下流に中州ができるように変わってきている。そういったことがあるが、計画どおりそういうことはないと思うが、撤去された河床を確認していないので、それでコンクリートの上は砂利で覆いますという説明だったかと。その辺の結果、そういう状態になったみたいな調査はしていないのでしょうか。

(事務局)

2つの質問があったかと思えます。1点目はみお筋を開けた後の河床の状況の確認についてどのくらいまでやってあるのか。2点目はダムを撤去する際に全部を取り除くのではなく、残る部分もある。その上はどうなるのか。河床の確認については、今年3月にみお筋をあけて、3月の出水が18日から19日にありました。その時にある程度の土砂が出ていった状況です。その後4月に1回測量をやりました。また、梅雨時期を迎えてまた河床が変動しており、梅雨明けから再度測量に入りたいと思っております。今データを集めている状況です。フォローアップの先生方とも相談しながら結果の方をもう少し詰めていきたいと思っております。

それから、残ったコンクリートの上ということですが、今の計画ではコンクリートの上に2m程度土があつて河床になる予定です。これは計算上のところでもありますので、測量の結果などをみながら今後注意深く観察していきたいと思っております。

(住民B)

下流に中州ができていますが、あの砂利はどこから来たのかというようなところまで、調査していただければと思います。

(事務局)

ダムの上下流の測量を行いまして、土砂の移動辺りも確認していきたいと思っております。

(住民C)

河床の状況の話が出ましたが、昔からの河床の状況を記憶のうえで比較すると鎌瀬橋

からダム上流くらいまでで約1 m位の堆積があるのではないのでしょうか。これが昔の河床の流れになるには相当の年月がかかると思われる。それを日頃見ないとどういう形で落ちていくのか。ダムの上流から鎌瀬でどのくらい堆積が残っているのか。

(事務局)

当初、ダムの上流に70万 m^3 くらい堆積していると予測していました。10万 m^3 事務的に撤去しまして、60万 m^3 残っている状況です。今回の出水によりまして、ダム上流から幾分かダム下流に流れているかと思えます。その辺を今から測量して、ある程度量をつかんでいこうと考えています。最終的に何年くらいかかるのかというのは30年とか50年とかかなりの年月をかけて、ゆっくりと少しずつ流れていくような形を考えております。

(住民C)

自然流下でお願いしており、ありがたいこと。自然流下で昔の川の流れに移す。それにしてもそんなにかかるとは思いませんか。3,500トンから4,000トンレベルの洪水がくるとかなり早いのではないのでしょうか。でもそういう予測なのですね。

(事務局)

3,500トンから4,000トンレベルの洪水がくるとある程度下流に流れていくかと思えます。シミュレーション上の結果として、上流から流れてくる土砂、下流へ流れる土砂を兼ね合わせまして、数十年かかるというような予測ですが、しっかりと測量等で確認しながらみていきたいと思えます。

(住民D)

私はもともとダムの影響で水害を受けたところですが、いま私の住んでいるところの砂利があがったところですが、だいたい幅が50mくらいで距離的には300mちょっとあるのですが、そこらが今度のダムの撤去によりまして、今日説明されたように、取られたことで大きな石がダムがあった当時は3m位の石が埋まっていたのですが、大小の石が移動して、現在その3m位の石が当時とはまるきり違った姿をみせている。洪水によって流れていくのでしょうか、だんだん変化していきますと岸部が洗われてちょっと危険だなあというところも出てきます。そういう点が下流と上流ではえらい違いなわけです。そういう点をみますと今から長い間観測する必要があると思えます。そういう点について、県としてその部分の修理といいますか、やはり昔に戻るその対策として、今からどういうことを考えておられているのかその辺りを説明してほしい。

(事務局)

水位低下それから河床の低下に伴います川を覆う護岸の安定性につきましては、現在のところその対策する箇所を毎年点検や監視をすることで、危ないところをみつけたら手当をするかたちをとっているところでございます。今後も引き続き監視を続けていきたいと思えます。ただ、今のところ工事が平成29年度までで、平成31年度までは観測

できる体制が決まっていますが、それ以降に関しましては河川管理者とも協議しながら考えていきたいと考えているところでございます。

(住民D)

もう1点ですね、私も子供のころから魚釣りが好きだったものですから、そういう観点から例えばダム撤去の工事中のところとか、今まで洗掘されたところの護岸とか、魚にはちょっと嫌なコンクリートでという点は、国との関係で何か対策を講じられて、また話し合いをされているのでしょうか。

(事務局)

主にやっている工事というのは、どちらかというと局所的な補修工事みたいなものです。例えば、コンクリートの根っこが洗われているところをこれ以上掘れないように埋めるとかそういった部分的な補修が多くなっているところでございます。球磨川の河川の特徴としまして、流れが速いというのが1つ、その流れの中に土砂および石とかを含んでくるということから、ある程度強度が求められる箇所が非常に多くございます。それで、安全に護岸を保つためにはどうしてもコンクリートを使わなければならない場所も出てくると思います。部分的には柔らかい土砂等のできる部分もあると思いますので、できるだけそういったところはそういった方向で考えて、環境面に配慮していきたいと思っております。一部できない所もございますので、そういうところもご了解いただければと思っております。

【進行】

他何かご意見等ございませんでしょうか。ご質問でも結構です。はいどうぞ。

(住民E)

ダムの下流で魚釣りをしています。わかりやすい説明、今日は本当にありがとうございました。順調に工事が進んでいるという事で、私も安心しているところでございます。ただ、2点お願いをしておきます。1点は工事の濁水ですね。対策は非常によくできていますけれど、あと2年ありますので、その濁水対策について気を抜かずにとつよしくお願いします。もう1点は撤去したコンクリート。あれは発破でやるから必ず川に落ちたり砂場に落ちたりするのですね。その撤去について、目で見て見える分は撤去していただきたいと思っております。私たち上からみてもわからないものですから、現場の方しかわからないと思っております。コンクリートを発破した残りをできるだけ撤去していただきたいと思っております。以上2点です。よろしくお願いしておきます。

(事務局)

どうもありがとうございます。濁水につきましては、工事の中で一番ご迷惑をかけることではございますので、可能な限り注意していきたいと思っております。できるだけ濁りを出さないように、汚濁防止フェンス等できる準備を精いっぱいやりながら極力濁水を少なく、出さないようにしていきたいと思っております。それから、もう1点のコンクリート片を

できるだけ飛散させないように、川の中に落ちないように努力することを一番の目標として、それでも出た場合には可能な限り片付けをしていきたいと思っています。

【進行】

他何かございませんでしょうか。

（住民C）

お願いがございます。ダム撤去につきましてはいろいろな思いがあるわけですが、壊せ壊せと大騒動してきた者ですが、ダムは55年間続いてきたことを考えますと、いろいろな捉え方がありますが、ダムが残した功績というのも非常に大きなものではないかなと思います。55年間、発電は無くなったけれどもやはりその当時の生活基盤の確保といえますか生活を支える意味では功績は大きいのではなからうかと思っています。もし、県の方にお考えがあるかわかりませんが、私の意向を申し上げますと、ともに55年間働いたダムがありました、発電所がありましたと、そういったことが後世に残るような記念碑でもいいしモニュメントでもいいし、何かそういう評価できるようなものを建設していただきたいなど、これは率直な素直な気持ちなのです。お金もかかりますけどご検討くださって、ひとつ河川管理者やらと相談してしかるべき場所に是非建設してほしい。ダムがあった、発電所があったこと、是非お願いしたいと思います。

（事務局）

貴重なご意見ありがとうございます。まだ具体化している計画は今のところはないのでございますけど、今日ご意見があった内容については、今後、地元や河川管理者とも一緒に考えていきたいと思っています。

（住民C）

是非お願いします。

【進行】

他何かございませんでしょうか。

（住民F）

荒瀬に住んでいます。今回発破時に道路沿いがかかることとなりますけども、近くに人家があります。その皆さんはどうなるのかというのを教えてほしいと思います。

（事務局）

発破の時、先ほども少し説明させていただきましたが、100mという保安距離を取って、その中には立ち入りをご遠慮願うような形となっております。それで、100mの線を引っ張りますと人家が1軒入る形になります。具体的には個別にご説明しながら進めたいと思っています。

【進行】

他に何か特にございませんでしょうか。それでは、特にご質問等ございませんでしょうので、ここで質疑等は終了させていただきたいと思ひます。

本日は、貴重なご意見をいただき、どうもありがとうございました。本日のご意見につきましては今後の撤去工事の参考とさせていただきたいと思ひます。それでは、これをもちまして、「平成 27 年度工事説明会」を終了させていただきます。皆様お疲れ様でございました。

※ 本会議録は会場での録音を基に作成しましたが、一部音声が不明瞭なため、聞き取れなかった箇所があります。

熊本県企業局 荒瀬ダム撤去室

TEL : 096-333-2600

FAX : 096-384-9114